

第 22 回すばる小委員会議事録

日時：6 月 19 日（火）午前 11 時 10 分より午後 3 時（JST）

場所：国立天文台三鷹すばる棟 2 階会議室（ハワイ観測所、IPMU と TV 会議接続）

出席者：青木和光、高田昌広、田村元秀、本原顕太郎、松原英雄、吉田道利

（以上三鷹）

有本信雄、大橋永芳（ハワイ観測所から TV 会議接続）

菅井肇（IPMU から TV 会議接続）

オブザーバー：柏川伸成 TAC 委員長

欠席者：秋山正幸、臼田知史、岡本美子、太田耕司、高遠徳尚、中村文隆

書記：吉田千枝

1 所長報告

1.1 修復中の S-Cam・FOCAS の状況

S-Cam は 7 月 11 日に望遠鏡に取り付けてみて、試験を行う。7 月 15 日から共同利用観測を再開する予定だ。FOCAS は 9 月から再開する予定だ。

1.2 HSC の進捗

6/1 に山頂へ輸送し、立ち上げ準備を進めている。不安のあるフィルター交換機構は 1000 回の試験を行っている。

Q：HSC はいつ公開の予定か？

副所長：S13B に間に合わせる予定で進めている。

1.3 はやぶさ 2 について

Gemini に依頼して Gemini-South で観測する計画だったが、天気が悪くて一度も実施できていない。Gemini-North でも観測する予定だ。

1.4 Euclid について

Euclid は ESA の衛星計画だが、そのチームから HSC で 200 夜観測したいというオファーがあった。HSC の戦略枠が終わって PFS が始まる頃にすばるの暗夜を独占的に使いたいという話だ。台長にも正式に申し入れがあり、台長は「今後検討する」という内容のレター(Letter of Intent)を送った。HSC プロジェクト代表の宮崎氏、IPMU の村山氏も同様に

議論を始めている。

C : 突然の話だが、急いで決断する必要があるのか？

C : 1年くらい猶予があるようだ。

C : 1年では UM も一度しかなく、検討期間が短い。

C : 戦略枠規模なので、戦略枠だと思えば不可能ではないが。

Q : 見返りは何なのか？

2 Euclid チームからの提案について

高田委員から資料が提示され補足説明があった。

Euclid は ESA の中型衛星計画 (900 億円規模) の一つとして採択されており、予算確保の目途も立っている。口径 1.2M の近赤・可視光望遠鏡で、2020 年頃に打ち上げ、約 15000 平方度の領域にわたり可視光・近赤撮像サーベイ及び近赤分光サーベイを 6 年間の運用で行う予定。サーベイ観測のパートナーとなる北天の地上望遠鏡を探している。すばるで必要とするのは約 200 晩と予想され、その見返りとしては 20-30 人の日本人研究者が Euclid コンソーシアム(600 人の研究者を擁する)にフルメンバーとして参加できる。今後 8 月の光天連シンポジウムや 9 月の HSC 研究会、2013 年 1 月頃のすばる UM 等で議論を行い、コミュニティにどれくらいのメリットがあるかをよく考えていきたい。

菅井委員補足：林台長、宮崎氏、村山氏が独立に対応しているのが現状だ。

所長：TMT 時代にすばるが生き残るためにはありがたい話とも言えるが、日本の研究者が生き残れるか心配だ。

高田委員：最近 NASA が Euclid に NIR 検出器の貢献(\$50M 相当)をする見返りとして 40 人の研究者が参加することになった。Euclid のデータはいずれ公開されるのだが、その 40 人は最初からフルアクセスが可能になる。40 人の下で働いている大学院生も在学中に限り参加できる。

C : イメージ・クオリティは高いようだ。

菅井委員：望遠鏡の設計についてはまだ二つの案があり、一つの案がチャレンジングな設計のように思える。

SAC 委員長:Euclid の予算確保が確実とのことなので SPICA の先を越されてしまう形だ。

この話は今始めて聞いたので、そう簡単には判断できないが、1-2 年で何らかの判断をしなければならないようだ。先方の提案を受け入れる場合は、10 年先のことを約束する形なので、大きな決断になる。

C : PFS と競合するのではないかと？

高田委員：分光サーベイについては、Euclid は分解能が約 R~250 であり、PFS とは質的に

全く異なる。

Q：なぜ先方はパートナー候補に HSC を選んだのか？

高田委員：すでに立ち上がりつつある装置であること、またイメージ・クオリティが高いと予想されるからだ。

C：UM の前にもう一度くらい議論をする機会をもつべきではないか？他波長の人の意見も聞きたい。

C：系外惑星分野でも影響は大きい。

SAC 委員長：UM の日程をそろそろ決めておく必要がある。1 月上旬は AAS の会合があるからだめということだったが、大学関係者の都合はどうか？年末の開催もありうるが。

C：Euclid の件を次の UM で決めるのは無理だ。WF MOS の場合も決断するまでに時間がかかった。

SAC 委員長：コミュニティの意向としてこの件に前向きだった場合は、それを先方に伝えてもう 1 年待ってもらおう。コミュニティが否定的だった場合は断ってしまうのがよいだろう。UM は 2 月の開催として、11 月頃に一度この件で会合を開いてはどうか。

C：前向きな立場の人ではなく、無関係な人に招待講演を依頼しましょう。

3 次期 SAC 委員の推薦について

まず委員長宛に届いた光天連からの推薦リストを確認した。

SAC 委員長：今回退任となるのは太田、岡本、菅井、松原の 4 委員なので、その後任候補を分野のばらつきも考慮しながら選びたい。銀河分野の委員が多く留任するので、星形成分野の人、恒星分野の人、スペース関係の人、装置のことがわかる人が必要だろう。

C：いつも同じ人が各種委員会に推薦されるので、他の委員会と重複しない、若い人を推薦したい。

所長：大学のバランスも考慮してほしい。また、現在オブザーバー参加している大橋副所長に次期は正式な台内委員となっていたideきたい。有本が抜けた後の欠員を補充する形だ。

C：分野のバランスから考えても賛成だ。

検討の結果、大橋氏を台内委員に追加し、4 名の台外委員候補者と 2 名の予備候補者を決定した。候補者の内諾を得た上で、次の光赤外専門委員会に上申する。TAC 委員との併任者がいない形になるので、引き続き TAC 委員長に毎回出席していただくことで了承を得た

(その後の議論で、TAC 委員長を正式な SAC メンバーとすることとした)。

4 HSC 戦略枠公募について

SAC 委員長：HSC は S13B から公開する予定で進んでいる。共同利用公開と同時に戦略枠を始めたいとのことなので、今年の夏には公募を始める必要がある。

所長：「HSC のデータ解析用パイプラインが公募観測ユーザーの使える状態になっていなければ戦略枠はやらない、解析ソフトを真剣に考えてほしい」と PI に伝えてある。

高田委員：8月のコミッショニングはほとんどがメカニカルの試験で、広報用の画像を最後に撮る程度になる。10月1日からのコミッショニングでパイプラインのテストができそうだ。

検討の結果、2012年10月31日をHSC戦略枠の公募締切とし、7月31日頃公募要項を公開することとした。スケジュールの詳細と公募要項は観測所内で検討を行う。

高田委員：HSCのチーム内から一つ要望がある。これまでの戦略枠公募では1ランあたり3夜から6夜までという割り付け制限があった。HSCは装置交換の手間がかかるので、いったん取り付ければ2週間ほどの装置ランになると予想される。戦略枠と一般公募観測が一緒に走る必要があるので、戦略枠ランは飛び飛びのほうがよい。PIから観測所に要望書を出す予定だ。

SAC 委員長：戦略枠ランの短いほうの制限（3夜以上）をはずすことは問題ないだろう。

検討の結果、戦略枠公募のおおまかな流れは前回は踏襲して進めることとした。

TAC 委員長：TACもSACも多くの人がHSCチームに入っているので、審査の際に支障が生じないか？

SAC 委員長：TAC・SAC合同で進めるしかない。

C：前回外国人レフェリー多数による審査に批判があったが。

C：客観的な目で審査する必要があるので、外国人レフェリーは必要だろう。

C：当該分野の日本人は皆関係者になってしまうという戦略枠特有の事情もある。

C：外国人と日本人半々くらいでどうか？

SAC 委員長：戦略枠公募のタイムラインは前回のものを見直して後ほど委員の皆さんに回覧します。観測所は公募要項の準備をお願いします。

5 光天連シンポジウムのすばるセッションについて

秋山委員(本日欠席)から8月に開催される光天連シンポジウムに向けた検討依頼がメールで寄せられている。

所長：すばると TMT の連携について SAC 委員が話してほしいとのことだが、この連携はユーザーが考えることではないか？観測所として検討しているのは人員配置だけだ。

C：シンポジウム当日はあいにく TMT メンバーのほとんどが出張中の予定だ。

所長：TMT 稼働まですばるがどうするかは考えているが、TMT 稼働後にどうするかはまだ皆が考えていない。考えていく必要がある。TMT 時代はすばるにとって厳しい時代になる。

SAC 委員長：誰かを指名して TMT 時代のすばるの戦略について話してもらうのがいいだろう。

ALMA との連携について講演者の推薦依頼があったが、ALMA との連携に関しては目新しい話題がないので、他波長との連携としてはどうか、という意見が出た。また国際連携に関する項目を立て、その中で Euclid の件も話題にすることになった。多くの議論項目が挙げられており、大人数では突っ込んだ話し合いはできないが、現状に関する認識を共有しようという趣旨だろうというコメントがあった。

6 SAC 報告書について

SAC 委員長：HSC/PFS はキュー観測で運用すべきと書いてある。

担当委員：SAC の場で議論したわけではないが、自分の考えで記述した。

SAC 委員長：観測所としては負担が大きくなる。キューで運用するのは大変だ。

所長：この報告書は観測所が受け取るだけで公表されないのか？

検討の結果、さらに文言を修正した上で最終版とし、すばるのウェブに置いて公開することとした。また光天連シンポジウムでは配布資料とすることとした。

7 各種報告

- ・来週パリで開催される IAP-Subaru International Joint Conference のプログラム紹介
- ・すばる春の学校の開催報告

以上 2 点については資料配布のみとした。

8 委員長挨拶及び今回で退任する委員からのコメント

SAC 委員長：これで今期の SAC は終了となります。2 年間ありがとうございました。

松原委員：名残惜しい。今後とも連絡を密にしたい。

菅井委員：非常に楽しませていただいた。Euclid の話は PFS 側としては心配な点もある。

コミュニティと十分議論していただきたい。

* 次回 SAC は新委員の決定を待って、8 月か 9 月に開催予定。

*** 資料 ***

- 1 SAC 報告書案
- 2 光天連からの次期 SAC 委員推薦名簿
- 3 Euclid からの提案について(高田委員)
- 4 光天連シンポジウム すばるセッションに関する審議依頼(秋山委員)
- 5 IAP-Subaru International Joint Conference プログラム
- 6 すばる春の学校 開催報告(青木委員)
- 7 第 21 回すばる小委員会議事録案